



“地域のことは地域で考えよう”

2020年3月30日

おきぎん県内景況・速報 2020年2月

一県内景況は急速な下向き圧力により、後退の動きがみられる—
(下方修正)

■個人消費

スーパー売上高は、全店ベース、既存店ベースともに、前年同月を上回る。

百貨店売上高は前年同月を下回る。

家電卸出荷額は前年同月を上回り、新車販売台数は下回る。

■建設関連

公共工事請負金額は前年同月を下回る。

生コン、セメントはともに前年同月を下回る。

新設住宅着工戸数は前年同月を下回る。

■観光関連

入域観光客数は前年同月を下回り、観光施設入場者数も下回る。

ホテル稼働率は、シティホテル、リゾートホテル、ビジネスホテルのすべてで下回る。

ホテル客室単価は前年同月を下回り、宿泊収入(推計値)も下回る。

■企業倒産

件数は前年同月と同数、負債総額は前年同月を下回る。

現場主義とお客様からの信頼

※お気づきの点、不明な点などがございましたら、下記までご連絡ください。

(株)おきぎん経済研究所

TEL:098-869-8711 FAX:098-869-2200

おきぎん県内景況・速報(2020年2月分)

◎2020年2月 おきぎん「カトレア」景況図



◎概況：県内景況は急速な下向き圧力により、後退の動きがみられる

2月の県内景況は、個人消費関連では、スーパー売上高は、全店ベース、既存店ベースともに、前年同月を上回りました。百貨店売上高はインバウンド需要の減少などにより、前年同月を下回りました。耐久消費財である家電卸出荷額は、前年同月を上回りました。新車販売台数は前年同月を下回りました。

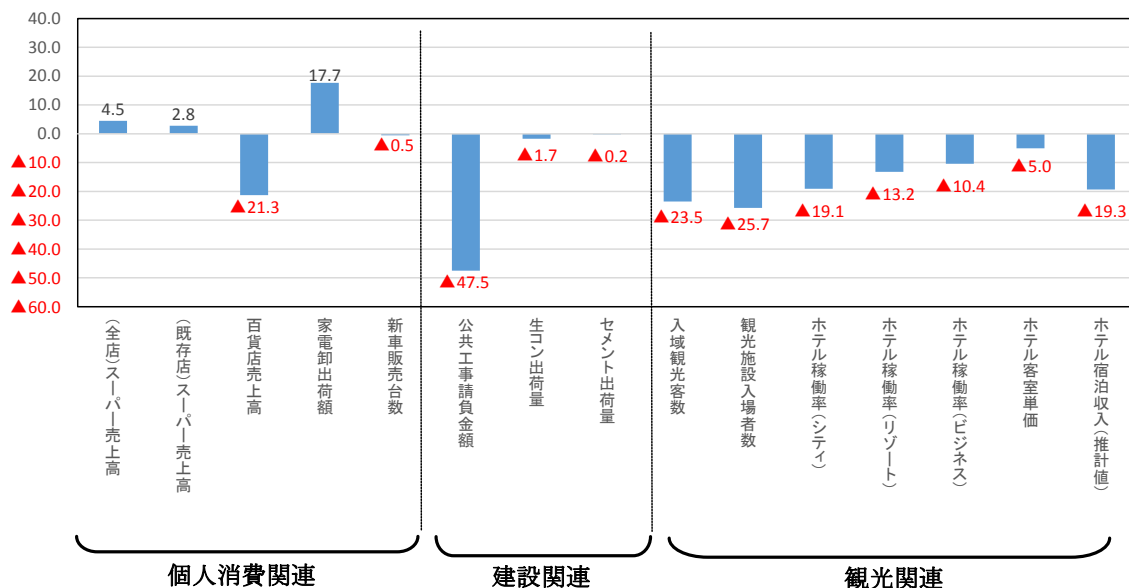
建設関連では、公共工事請負金額は5ヵ月ぶりに前年同月を下回りました。建設資材である生コン、セメントはともに前年同月を下回りました。

観光関連では、入域観光客数は2ヵ月連続で前年同月を下回り、観光施設入場者数も前年同月を下回りました。ホテル稼働率はシティホテル、リゾートホテル、ビジネスホテルのすべてで前年同月を下回りました。ホテル客室単価は前年同月を下回り、宿泊収入(推計値)も下回りました。

このような状況に鑑みて、建設関連が概ね堅調な中、新型コロナウイルス感染症の影響により、個人消費で一部に弱さがみられるほか、観光関連は全体的に厳しい状況にあることなどから「県内景況は急速な下向き圧力により、後退の動きがみられる」と景気判断しました。 (下方修正)

主要景気指標前年同月比

(単位:%、ポイント)





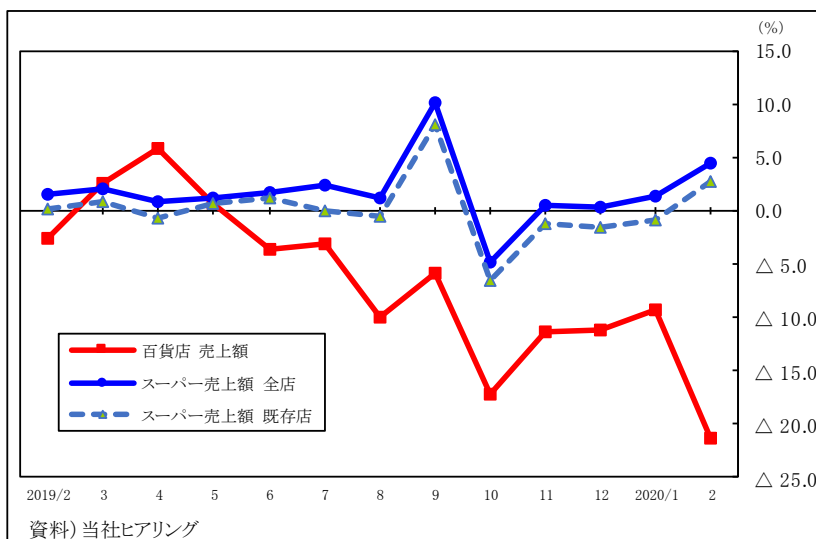
■個人消費：（ふつう）

- ① スーパー・百貨店売上高…スーパー売上高は、全店ベース、既存店ベースともに前年同月を上回る。百貨店売上高は前年同月を下回る。

単位：％

	スーパー売上額		百貨店 売上額
	全店	既存店	
2019/2	1.6	0.2	△ 2.6
3	r 2.0	r 0.9	2.6
4	0.9	△ 0.6	5.8
5	1.2	0.7	0.7
6	1.7	1.2	△ 3.6
7	2.5	r △ 0.02	△ 3.1
8	1.3	△ 0.5	△ 10.0
9	10.2	8.1	△ 5.9
10	△ 4.8	△ 6.6	△ 17.2
11	0.5	△ 1.2	△ 11.3
12	0.3	△ 1.5	△ 11.2
2020/1	1.4	△ 0.8	△ 9.3
2	4.5	2.8	△ 21.3

注) 前年同月比

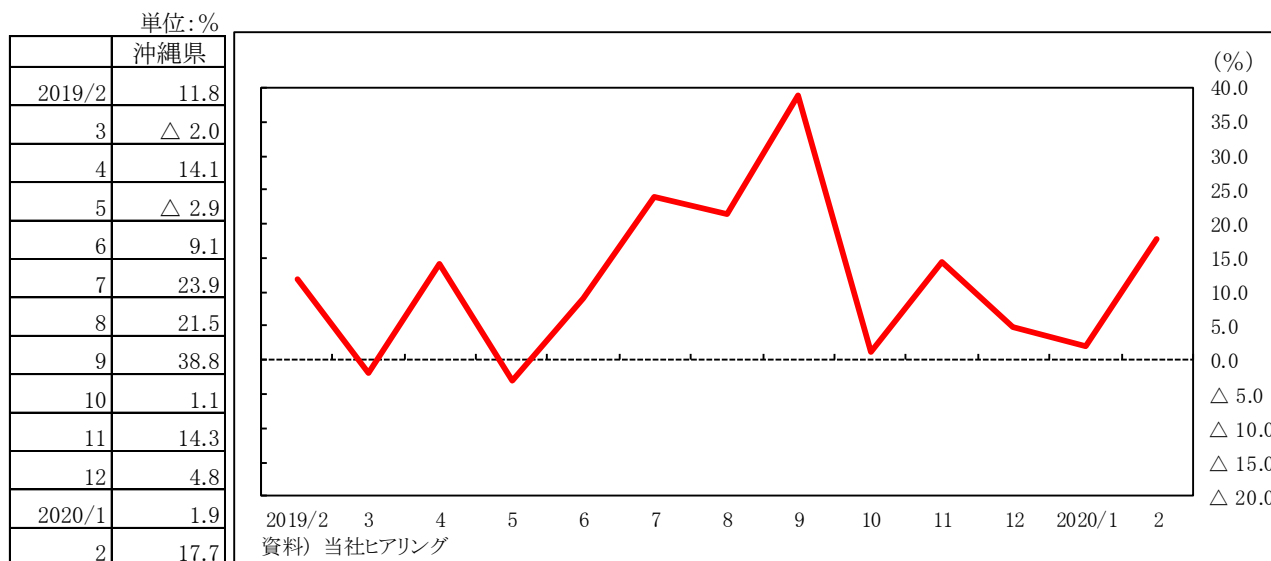


2月の個人消費関連では、スーパー売上高「全店ベース(前年同月比4.5%増)」は、食料品、家庭用品が伸び、4ヵ月連続で前年同月を上回りました。「衣料品(同6.4%減)」は、暖冬に加え、消費税増税、新型コロナウイルスの影響などから売り上げが伸びず、前年同月を下回りました。一方、「食料品(同5.3%増)」、「家庭用品(同5.2%増)」は、新規出店効果などにより、前年同月を上回りました。

「既存店ベース(同2.8%増)」は、食料品が伸び5ヵ月ぶりに前年同月を上回りました。品目別では、「衣料品(同12.5%減)」は、気候要因や、消費税増税の影響に加え、新型コロナウイルスの影響により客足が伸びず、前年同月を下回りました。「家庭用品(同1.0%減)」は、マスク等の衛生用品が伸びたものの、新設店舗の影響や、インバウンド需要の減少などにより、家電、化粧品等の売り上げが伸びず、前年同月を下回りました。一方、ウエイトの高い「食料品(同4.9%増)」は、旧正月が月ズレ(1月)となったものの、うるう年により営業日が1日多かったことや、新型コロナウイルスの影響により中食、内食需要が増加したことなどから、レトルト食品やカップラーメン、青果、精肉、鮮魚など全般的に売り上げが伸び、前年同月を上回りました。

百貨店売上高は、新型コロナウイルスの影響により、中国による海外への団体旅行禁止や、外出自粛の動きなどにより、県内外顧客の集客が伸びず、9ヵ月連続で前年同月を下回りました(同21.3%減)。内訳をみると、「食料品(同2.1%減)」は、バレンタイン企画や催事企画は好調だったものの、旧正月の月ズレなどにより、前年同月を下回りました。靴、バッグ等の「身のまわり品(同31.9%減)」や、ウエイトの高い「衣料品(同23.1%減)」は、新型コロナウイルスの影響で客足が伸びず、前年同月を下回りました。化粧品等の「雑貨(同36.5%減)」は、春節の月ズレ(1月)による反動減に加え、新型コロナウイルスの影響などによりインバウンド需要が大幅に減少し、前年同月を下回りました。

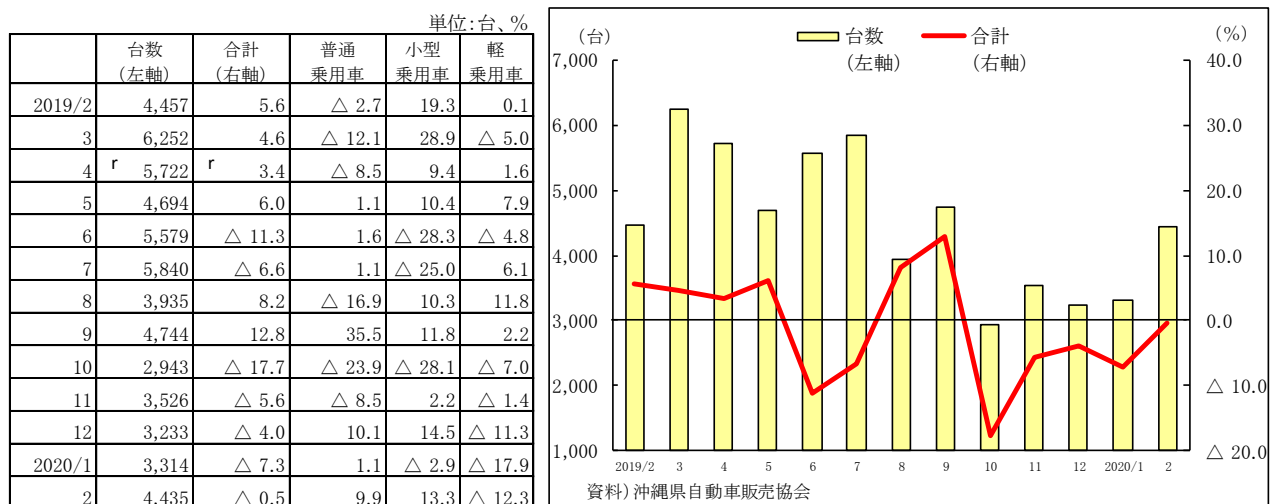
② 家電卸出荷額…家電卸出荷額は9ヵ月連続で前年同月を上回る。



注) 前年同月比

家電卸出荷額は、業務用家電などの売り上げが伸び、9ヵ月連続で前年同月を上回りました(同 17.7%増)。品目別では、「テレビ(同 16.5%減)」、「冷蔵庫(同 5.6%減)」は、消費税増税の駆け込み需要の反動などにより、前年同月を下回りました。一方、「洗濯機(同 15.3%増)」、「エアコン(同 25.0%増)」は、買い替え需要の増加により、前年同月を上回りました。また、「その他家電(同 25.5%増)」は、空気清浄機や業務用家電などの需要が増加し、前年同月を上回りました。

③ 新車販売台数…新車販売台数は、5ヵ月連続で前年同月を下回る。



注) 前年同月比

注) 普通乗用車及び小型乗用車は登録車、軽乗用車は届出車の数値を表示。

新車販売台数は、全体で4,435台(同 0.5%減)となり、5ヵ月連続で前年同月を下回りました。車種別では、「普通乗用車(同 9.9%増)」、「小型乗用車(同 13.3%増)」は、消費税増税の影響により自家用車需要が伸びなかったものの、レンタカー需要が増加し、普通乗用車は3ヵ月連続、小型乗用車は2ヵ月ぶりに前年同月を上回りました。一方、「軽乗用車(同 12.3%減)」は、レンタカー需要は増加したものの、自家用車需要が減少し、5ヵ月連続で前年同月を下回りました。

※普通乗用車及び小型乗用車は登録ベース、軽乗用車は届出ベースの数値を合算。

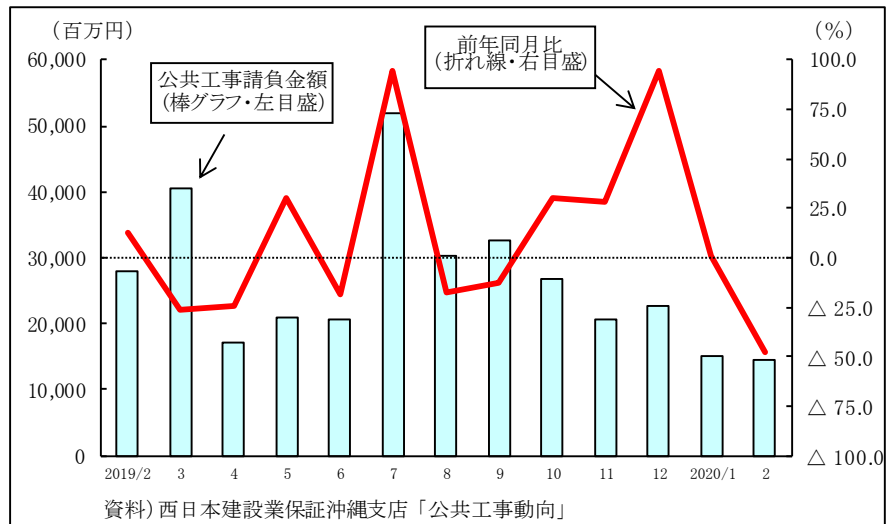


■ 建設関連： (やや良い)

①公共工事・・・公共工事請負金額は前年同月を下回る。

単位:百万円、%

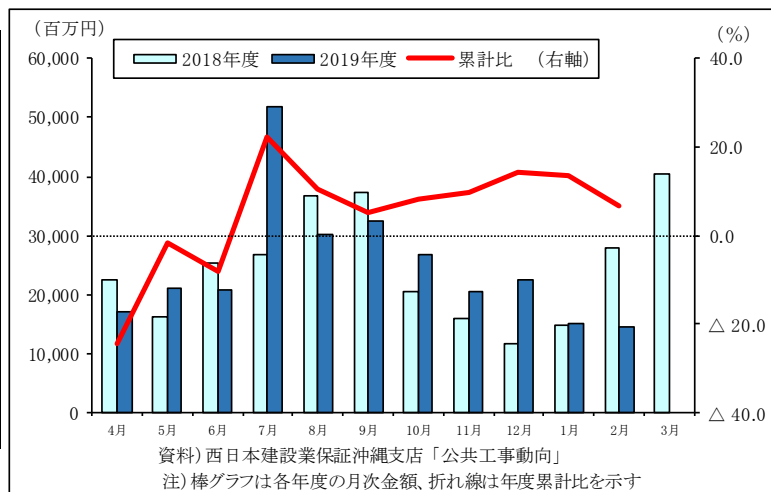
	請負金額	前年同月比
2019/2	27,833	12.8
3	40,417	△25.9
4	17,044	△24.3
5	21,038	30.4
6	20,741	△18.1
7	51,900	94.2
8	30,231	△17.8
9	32,533	△12.5
10	26,687	29.8
11	20,544	28.2
12	22,615	94.7
2020/1	15,144	1.3
2	14,601	△47.5



【参考】公共工事（年度累計）・・・公共工事請負金額は前年同期を上回る。

単位:百万円、%

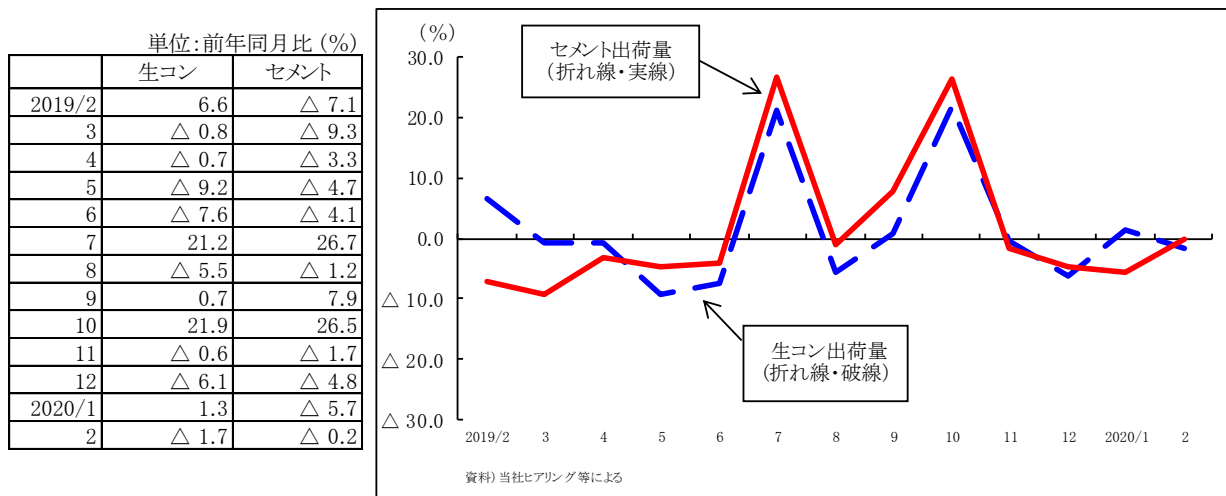
	2018年度	2019年度	累計比 (右軸)
4月	22,513	17,044	△24.3
5月	16,134	21,038	△1.5
6月	25,324	20,741	△8.0
7月	26,729	51,900	22.1
8月	36,794	30,231	10.6
9月	37,192	32,533	5.3
10月	20,558	26,687	8.1
11月	16,031	20,544	9.7
12月	11,613	22,615	14.3
1月	14,944	15,144	13.5
2月	27,833	14,601	6.8
3月	40,417		



2月の公共工事請負金額は、前年同月比47.5%減の146億100万円となりました(5ヵ月ぶり減)。今年度累計値では、6.8%増となっています。

発注者別でみると、「国(同67.7%減)」や「その他の公共的団体(同94.6%減)」は前年同月を下回りました。一方で、「独立行政法人等(同92.8%増)」や「沖縄県(同13.8%増)」、「市町村(同46.1%増)」は上回りました。

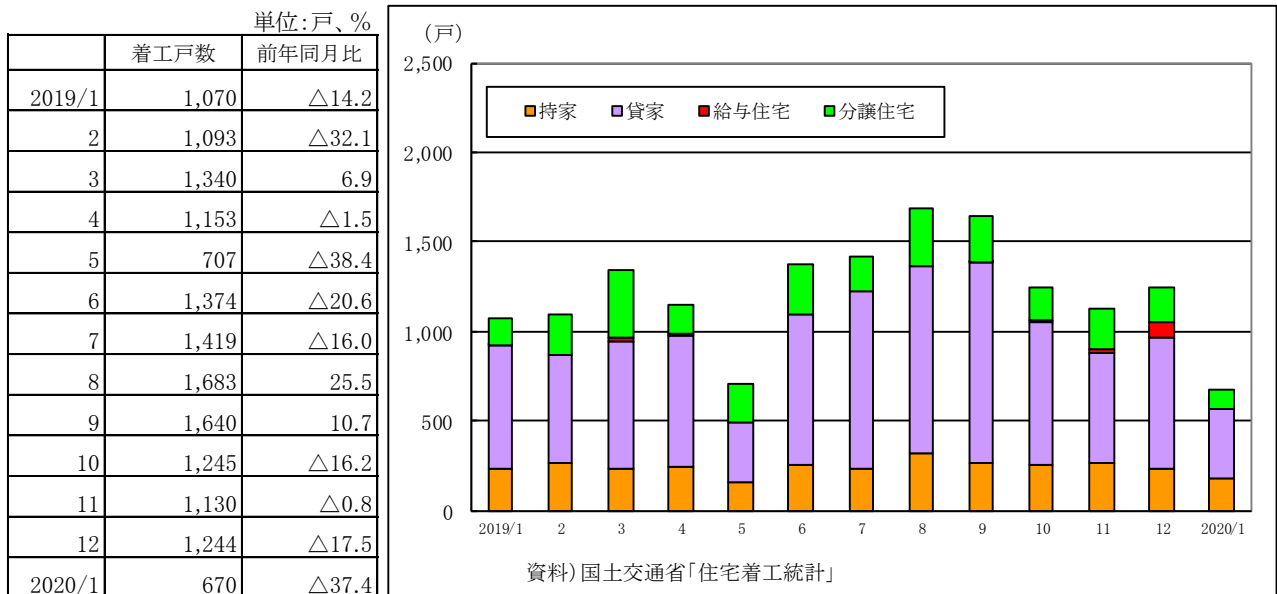
②建設資材・・・生コン、セメントはともに前年同月を下回る。



(注1) セメント出荷量は、速報値につき、確報にて修正される場合がある

建設資材関連では、**生コン**の出荷量は1.7%減と2ヵ月ぶりに前年同月を下回りました。内訳では、公共工事向け出荷は、北部地区の防衛関連や学校関連出荷などが増加し前年同月より1.5%上回り、民間工事向けは、離島や北部地区で昨年あった宿泊施設・住宅関連需要の反動減などで前年同月より3.4%下回りました。**セメント**出荷量は0.2%減と4ヵ月連続で前年同月を下回りました。

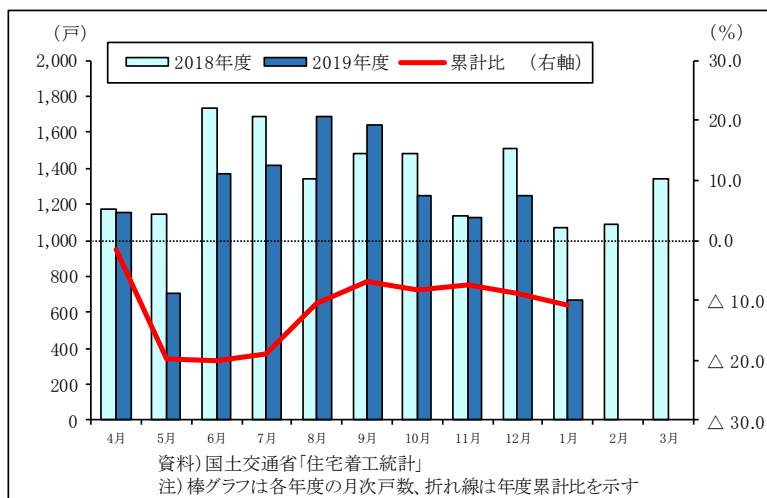
③【参考】住宅投資(1月)・・・着工戸数は前年同月を下回る。



新設住宅着工戸数は、全体で前年同月比37.4%減の670戸となり、4ヵ月連続で前年同月を下回りました。利用別戸数をみると、ウェイトの高い「貸家(同44.3%減)」のほか、「持家(同19.8%減)」や「給与住宅(同100.0%減)」、「分譲住宅(同32.0%減)」が前年同月を下回りました。

住宅投資（年度累計）・・・着工戸数は前年同期を下回る。

	2018年度	2019年度	単位:戸、% 累計比 (右軸)
4月	1,171	1,153	△1.5
5月	1,148	707	△19.8
6月	1,730	1,374	△20.1
7月	1,690	1,419	△18.9
8月	1,341	1,683	△10.5
9月	1,482	1,640	△6.8
10月	1,486	1,245	△8.2
11月	1,139	1,130	△7.5
12月	1,507	1,244	△8.7
1月	1,070	670	△10.9
2月	1,093		
3月	1,340		



今年度累計値では、10.9%減となっています。



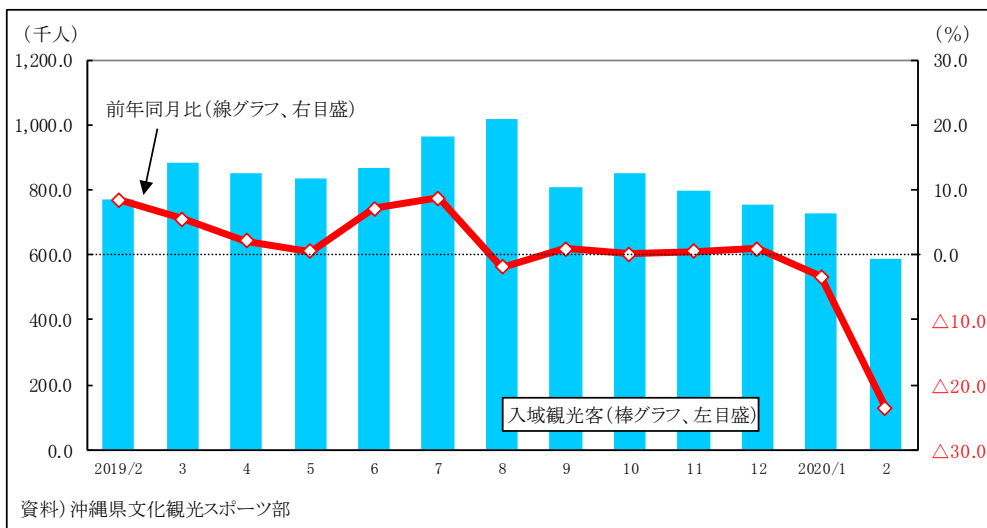
■観光関連： (やや悪い)

①入域観光客数（国内客・外国客の合計）・・・・2ヵ月連続で前年同月を下回る。

単位:千人、%

	入域 観光客	前年 同月比
2019/2	772.2	8.5
3	884.0	5.6
4	851.4	2.2
5	834.9	0.5
6	868.2	7.2
7	963.6	8.8
8	1,021.2	△ 1.9
9	809.3	1.0
10	851.3	0.2
11	799.2	0.5
12	755.1	1.0
2020/1	727.8	△ 3.4
2	590.9	△ 23.5

※外国客は乗務員等を含む

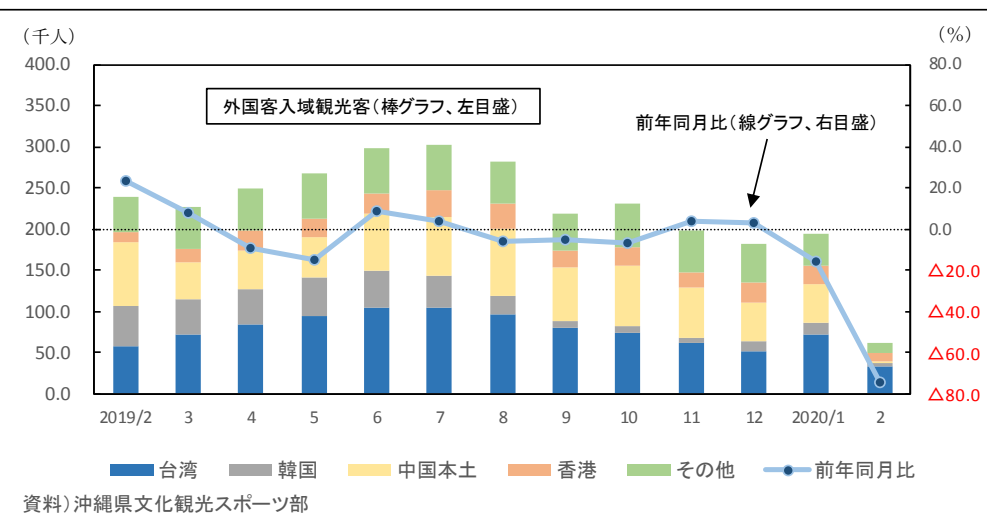


外国客 入域観光客数・・・・2ヵ月連続で前年同月を下回る。

単位:千人、%

	入域 観光客	前年 同月比
2019/2	240.1	23.3
3	226.6	7.8
4	250.3	△ 9.6
5	268.4	△ 15.1
6	298.4	8.5
7	302.8	4.1
8	282.9	△ 5.7
9	218.7	△ 5.1
10	230.5	△ 6.5
11	199.1	4.2
12	182.4	2.9
2020/1	193.5	△ 15.8
2	61.0	△ 74.6

※外国客は乗務員等を含む



2月の入域観光客数は、181,300人少ない590,900人(前年同月比23.5%減)となり、2ヵ月連続で前年同月を下回りました。

内訳をみると、「国内客(同0.4%減)」は529,900人と、新型コロナウイルス感染症の発生による旅行自粛の動きや国内クルーズ船の寄港が減少したこと等から、3ヵ月ぶりに前年同月を下回りました。

他方、「外国客(同74.6%減)」は、61,000人と2ヵ月連続で前年同月を下回りました。新型コロナウイルス感染症の流行による航空路線の減便やクルーズ船の寄港回数減少、訪日旅行自粛の動きが加速したこと等から、前年同月を大きく下回りました。

「台湾(同42.9%減)」「韓国(同90.4%減)」「中国本土(同98.6%減)」「香港(同11.0%減)」

※乗務員等を除く2020年2月実績＝全体587,400人(同20.6%減)、外国客57,500人(同72.4%減)、国内客は変わらない。

②観光施設入場者数・・・7ヵ月連続で前年同月を下回る。

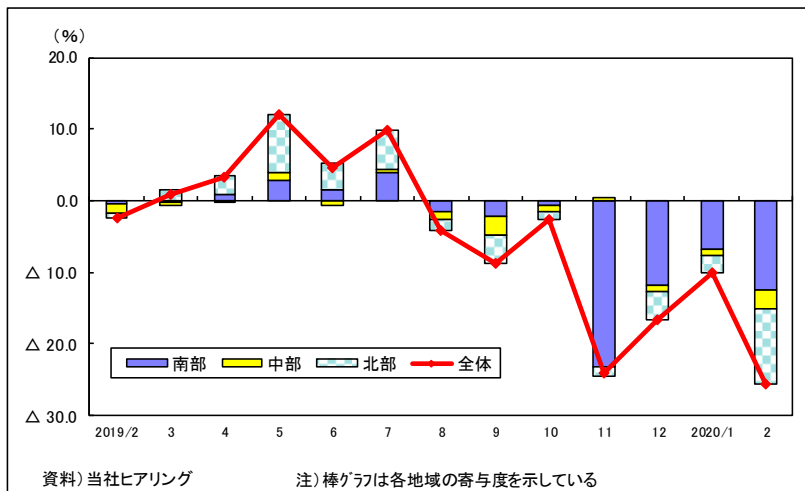
単位: %

	入場者数(前年同月比)			
	全体	南部	中部	北部
2019/2	△ 2.5	△ 1.4	△ 11.5	△ 1.2
3	0.9	△ 0.4	△ 4.7	3.4
4	3.2	1.9	△ 2.2	5.7
5	12.0	6.4	11.1	17.6
6	4.6	3.5	△ 6.7	7.8
7	9.8	10.8	2.8	10.3
8	△ 4.2	△ 4.1	△ 11.2	△ 3.0
9	△ 8.7	△ 6.3	△ 25.2	△ 7.1
10	△ 2.7	△ 1.5	△ 9.4	△ 2.4
11	△ 24.2	△ 51.7	3.8	△ 3.3
12	△ 16.7	△ 27.7	△ 6.8	△ 8.8
2020/1	r △ 10.1	r △ 16.4	△ 6.7	△ 5.3
2	△ 25.7	△ 31.7	△ 23.7	△ 21.2

※調査対象施設数＝南部6、中部5、北部4施設

※2019年3月より、北部の対象施設数が変更(5⇒4)となったことから、2018年3月以降の数値を遡って改定した。

※公表後に改定する場合があり最新公表資料が確定値とする。



観光施設入場者数は、全体で前年同月より25.7%減少(7ヵ月連続)しました。地域別にみると、南部にある観光施設は同31.7%減と7ヵ月連続、中部は同23.7%減と3ヵ月連続、北部は同21.2%減と7ヵ月連続で前年同月を下回りました。

③ホテル稼働率・・・シティホテル、リゾートホテル、ビジネスホテルのすべてで前年同月を下回る。

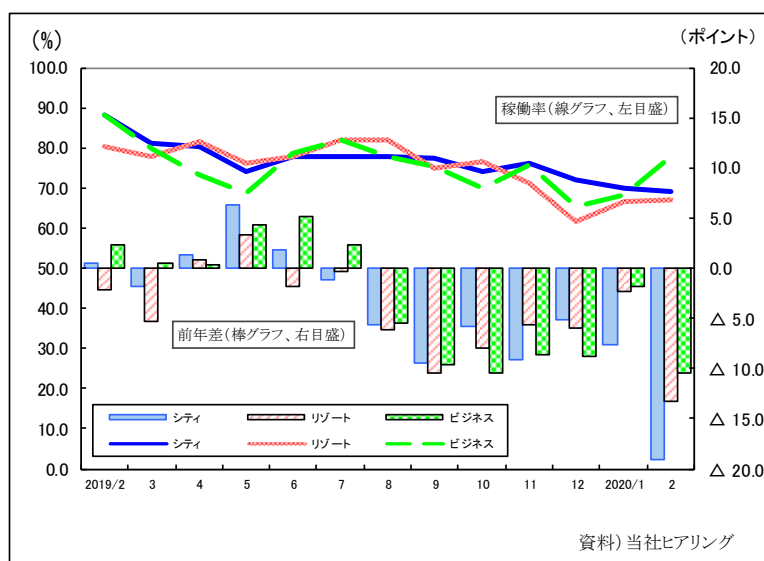
単位: %, ポイント

	稼働率			前年同月差		
	シティ	リゾート	ビジネス	シティ	リゾート	ビジネス
2019/2	r 88.2	r 80.3	88.0	r 0.5	r △ 2.1	2.3
3	81.0	77.8	79.9	△ 1.8	△ 5.3	0.5
4	80.2	81.4	73.4	1.3	0.8	0.4
5	74.2	76.2	68.8	6.3	3.3	4.3
6	77.8	77.7	78.6	1.9	△ 1.8	5.1
7	77.8	81.9	81.8	△ 1.2	△ 0.4	2.3
8	77.8	81.9	77.6	△ 5.6	△ 6.1	△ 5.4
9	77.5	75.0	75.3	△ 9.4	△ 10.4	△ 9.6
10	74.1	76.4	70.0	△ 5.8	△ 8.0	△ 10.5
11	76.3	71.2	75.6	△ 9.1	△ 5.6	△ 8.7
12	72.1	61.8	65.4	△ 5.2	△ 5.9	△ 8.8
2020/1	70.1	66.8	68.1	△ 7.6	△ 2.4	△ 1.9
2	69.1	67.1	77.6	△ 19.1	△ 13.2	△ 10.4

注) シティ8ホテル、リゾート18ホテル、ビジネス4ホテル

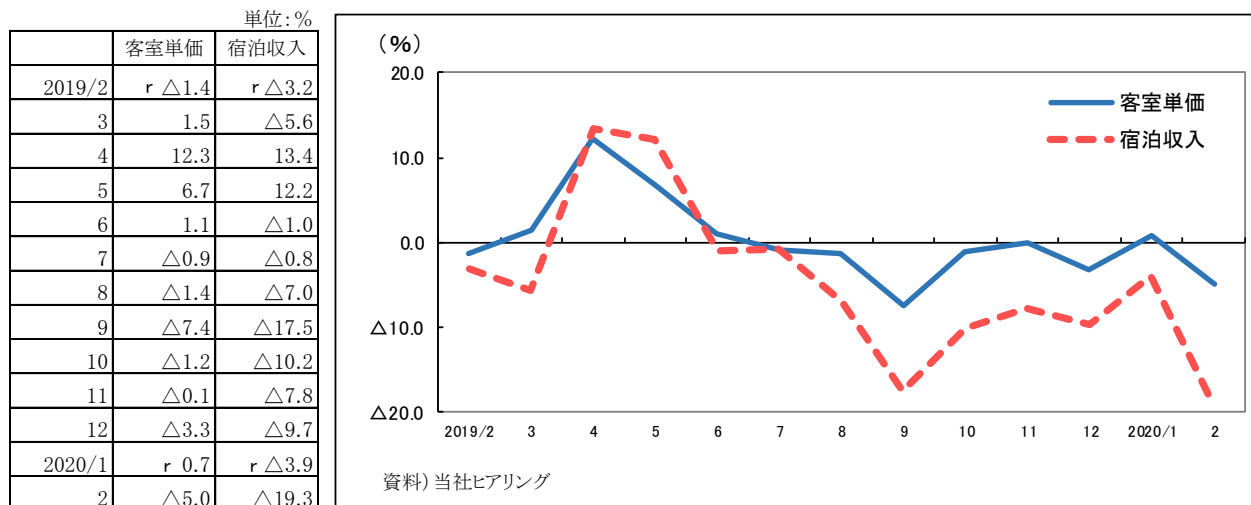
注) 2019年11月より、ビジネスホテル対象施設数が変更(6⇒4)となったことから、2018年11月以降の数値を遡って改定した。

※公表後に改定する場合があり最新公表資料が確定値とする。



県内ホテル稼働率は、シティホテルが69.1%と19.1ポイント減少(8ヵ月連続)、リゾートホテルが67.1%と13.2ポイント減少(9ヵ月連続)、ビジネスホテルが77.6%と10.4ポイント減少(7ヵ月連続)しました。

④ ホテル客室単価・宿泊収入・・・客室単価は前年同月を下回り、宿泊収入も下回る。



※対象施設数:26施設(シティ8、リゾート18)、ビジネスは除く

※客室単価は26施設の平均値、宿泊収入は各施設の推計値の総額(稼働率及び客室単価より当社推計)

※公表後に改定する場合があります最新公表資料が確定値とする。

ホテル客室単価(シティ&リゾート)は前年同月比 5.0%減と前年同月を下回りました。宿泊収入も同19.3%減と前年同月を下回りました。

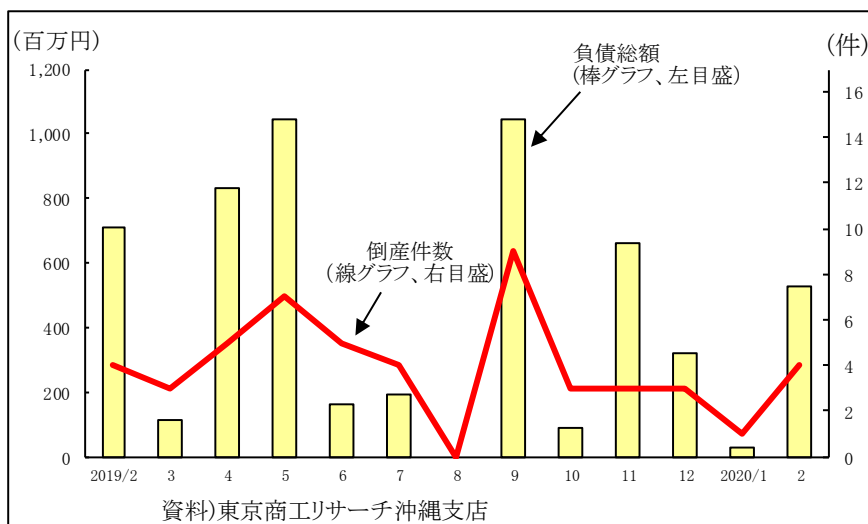


■企業倒産： (やや良い)

企業倒産・・・件数は前年同月と同数、負債総額は下回る。

単位:百万円、件

	負債総額	倒産件数
2019/2	708	4
3	110	3
4	832	5
5	1,042	7
6	163	5
7	190	4
8	0	0
9	1,045	9
10	86	3
11	660	3
12	318	3
2020/1	30	1
2	530	4



2月の企業倒産件数は、4件(うち大口倒産は1件)となり、前年同月と同数となりました。

負債総額は5億3,000万円となり、前年同月より25.1%下回りました。



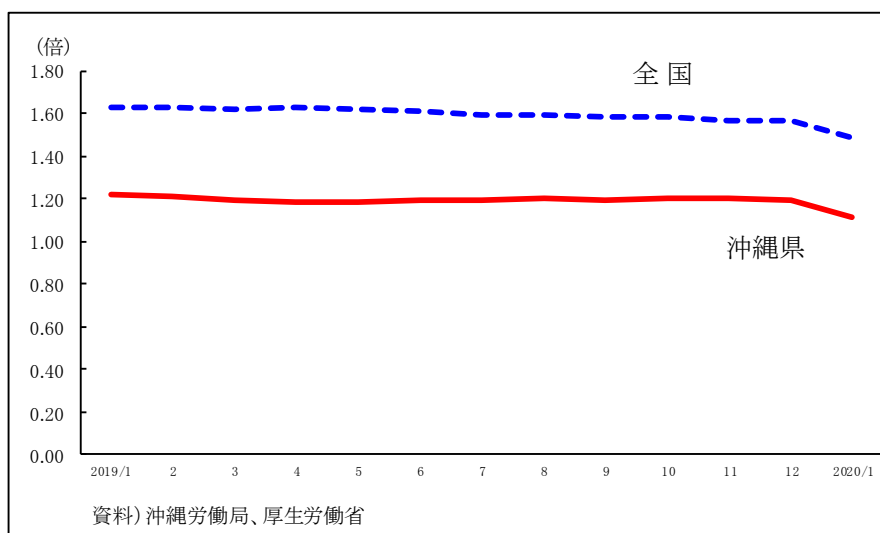
雇用関連： (良い)

【参考】有効求人倍率(1月)・・・沖縄、全国はともに前月より低下。

単位:倍

	沖縄県	全国
2019/1	1.22	1.63
2	1.21	1.63
3	1.19	1.62
4	1.18	1.63
5	1.18	1.62
6	1.19	1.61
7	1.19	1.59
8	1.20	1.59
9	1.19	1.58
10	1.20	1.58
11	1.20	1.57
12	1.19	1.57
2020/1	1.11	1.49

注)季節調整済

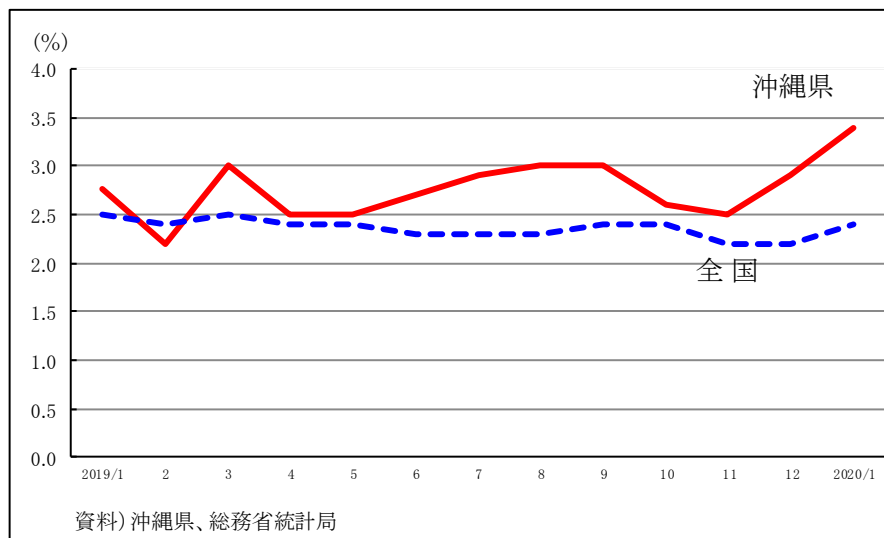


1月の雇用状況は、月間有効求人数(季節調整値)は前月比6.6%減の28,770人に対して、月間有効求職者数(同上)は前月比0.1%減の25,862人となり、有効求人倍率(季節調整値)は1.11倍となり前月より0.08ポイント低下しました。

【参考】完全失業率（1月）・・・沖縄、全国はともに前月より上昇。

	単位: %	
	沖縄県	全 国
2019/1	2.8	2.5
2	2.2	2.4
3	3.0	2.5
4	2.5	2.4
5	2.5	2.4
6	2.7	2.3
7	2.9	2.3
8	3.0	2.3
9	3.0	2.4
10	2.6	2.4
11	2.5	2.2
12	2.9	2.2
2020/1	3.4	2.4

注) 季節調整済



1月の完全失業率(季節調整値)は、3.4%となり前月より0.5ポイント上昇しました。